実践 12 福祉×農業×丹念な関わり

関係機関一体のきめ細かなマッチング
～フォローアップで施設外就労を拡大

★注目ポイント★

1. 農福連携の啓発活動として、農作業の依頼者に障がい者を理解するための説明会を、就労支援の事業所に農業技術の指導会を開催
2. マッチングの際は、顔合わせ・作業説明・作業条件の確認・作業体験等、事前準備をしたうえで請負契約を締結
3. 契約締結後も、現場の定期訪問と当事者・中間支援団体での作業検証会で、課題と効果の確認等のフォローアップを実施

社会福祉法人
岩手県社会福祉協議会
http://www.iwate-shakyo.or.jp/
（岩手県盛岡市）

×

岩手県、農家、JA
特別支援学校高等部
岩手県内障がい者就労支援事業所　等

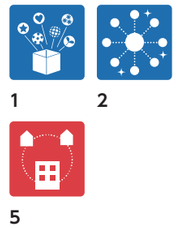
● 基本データ（令和3〈2021〉年11月現在）

所在地	〒020-0831 岩手県盛岡市三本柳8地割1番3
TEL	019-637-4466
開設年	昭和46（1971）年
職員数	3人

概　要

令和３（2021）年４月、県内全域を対象とした「障がい者就労・社会参加支援事業」を岩手県より受託した岩手県社会福祉協議会は、農林水産業者等と就労支援事業所との間に立ち、役務請負に関するマッチング支援とフォローアップ、特別支援学校で開く出前講座など、他分野連携の土壌づくりを行っています。

SELP Vision 2030



構成員と役割

本事業に携わる職員の人数　3人

事業に関してそれぞれの職員が役割をもつのではなく、業務を案件ごとに分担して対応しています。

施設・事業所　あすなろホーム、石上の園、えさしふれあい工房、ワークセンターわかくさ、北上アビリティセンター、ひめかみの風　等223施設・事業所

その他の組織　岩手県、農家、JA（農業協同組合）、特別支援学校高等部

MEMO

開始までの経緯

岩手県社会福祉協議会（以下、岩手県社協）が岩手県から受託した事業（沿岸部地域を対象とした「障がい福祉サービス復興支援事業」「農福連携総合支援事業」「水産加工・障害福祉マッチング事業」は、令和２年度をもって終了。令和３年４月より新たに、これまでの事業を包含し、岩手県内全域が対象となる「障がい者就労・社会参加支援事業」の公募があり、引き続き障がい者の就労を支援する事業所の支援に取り組むこととしました。

具体的な取り組み

この事業で岩手県社協は、他分野連携の土壌づくりを実施しています。令和３年４月より、農林水産業者等と就労支援事業所の役務等業務受発注のマッチング支援と、その後のフォローアップが行われています。

マッチングに向けた支援では、他分野の相互理解を図るための場を提供しています。例えば、農林水産業者等が障がいや障がい者を理解するための研修会、障がい者就労支援事業所の職員が農林水産業を理解するためのセミナーなどです。

マッチング時は、農家と事業所の顔合わせと作業説明会を開催し、事業所職員は作業を体験します。利用者が行うこととなる作業を職員が体験するのは、各事業所で対応可能か否かを検討してもらうためです。事業所が受託意向を示した場合は、農家、事業所、岩手県社協、その他中間支援団体等が同席のもとで作業条件等を確認し、契約を締結して作業に入るそうです。

特別支援学校では出前講座・体験学習・説明会も行います。取り組みに参加することを通して農業に興味をもつようになる等、この事業は他分野連携の土壌をつくり、特別支援学校の生徒たちの進路決定に好影響を与えています。

マッチング先での剪定作業

事業で発生する経費

必要な経費は人件費や需用費などで、岩手県から入る受託金収入をもとに事業が行われています。

工夫していること、心がけていること

マッチング後のサポート

岩手県社協は、契約締結後も定期的に農家や事業所、作業現場を訪問し、作業に関する課題や効果などを確認するよう努めています。

農閑期には農家、事業所、岩手県社協、その他中間支援機関が同席して作業検証会を開催し、作業の効果や課題、改善点等について意見を交わし、作業条件の見直しなど次の年度に向けた作業環境の整備にも努めるといいます。

リンゴの葉積みから機械を用いた選別までの作業は幅広い

課題と対応

課題 マッチングに関する課題 → 対応

農家の数に対し就労支援事業所の数が少なく、ミスマッチングが生じたことがありました。そのため岩手県社協は、ニーズの掘り起こしよりも農家と事業所の良好な関係維持に重点をおき、双方が気持ちよく作業に臨める環境を一緒に作ることを心がけました。

課題 事業所の利用者層とのミスマッチ → 対応

従来から農業などに取り組む就労支援事業所や、職員に農業経験者がいる事業所は、積極的にこの事業に参加しますが、利用者の重度化、高齢化のため、施設外就労が難しい事業所もあります。

そうした事業所に岩手県社協は、別のステップを用意しました。事業所側が未経験の作業はまず、作業内容を説明し、事業所職員が研修を受けた後、試用期間を設けて作業に入るステップです。このステップが奏功する場合もあれば、正式な作業受託に移行することに慎重さを見せる事業所もあるそうです。

課題 事業所情報の収集 → 対応

岩手県社協によれば、就労支援事業所が発信する情報が少なく、事業所の強みや作業経験等の把握が難しいことが課題であるといいます。そこで課題を解決するため、岩手県社協は、就労支援事業所のデータベースを作成しました。具体的な活用は今後詰められ、情報発信をマッチングにつなげ、業界の魅力を発信するために活用したいと考えています。データベースに蓄積させた内容は下記のとおりです。

データベースに蓄積させた内容

- 実際に請け負っている作業、過去に請け負った作業など、就労支援事業所のスキルや実績
- 使用していないものを含めた、事業所が保有する設備
- 製造、販売している商品の情報
- 事業所の意向（工賃向上のため作業を拡大する意向か、日中支援に比重をおくのかなど）

反応・効果

利用者の反応・効果

利用者の体力向上、コミュニケーション機会の増加による心身の健康増進が見られます、農家の方に作業を褒めてもらうことが、利用者の自己有用感の向上と作業の幅（職域）の拡大につながっています。

職員の反応・効果

「地域の農家との連携で、新たな作業受託の機会が増す」とは、就労支援事業所職員の評価です。作業受託の設備投資が安価で済むため、作業賃金の多くを工賃に充てることができる効果があるそうです。

地域の反応・効果

高齢化、少子化により農家は人手不足で、作業人員の確保が難しい状況を解消する一助となっており、農福連携に取り組む農家が知り合いの農家にも声をかけ、マッチングにつながることもあるといいます。

家庭の軽作業や冬場の除雪作業など、日常生活の一部を請け負う事業所は、地域の見守り活動の一翼を担っています。実際に、作業中に健康状態に不安がある住民を発見した例があり、地域づくりの側面でも効果が出ています。

★展望・課題

現状は、障がい者施設×障がい者施設、障がい者施設×高齢者施設など、「『福祉×福祉』の連携をコーディネートするには至らない」といいます。

さまざまな施設種別の協議会が内部団体であることを岩手県社協は強みであると考える一方、他方では、企業や農林水産業者とのマッチングをさらにすすめる必要があると考えています。

組織の強みを活かせる方法も模索しつつ、障がい者就労支援の事業所で働く利用者が地域で生活できるよう、さらに工賃向上が図られるよう、さまざまな可能性を探り活かす方法を検討したいそうです。

岩手県社会福祉協議会の SDGsへの取り組み

この事業に携わる岩手県社協の職員は、農林水産業者や企業等の訪問・対応の際、SDGｓバッジを身に着けて活動しています。

障がい者就労支援事業所の製品を積極的に購入することを通じて、SDGsに取り組んでいるとアピールする企業は増えており、岩手県社協の担当の皆さんは企業の意向を大切にしながら、この事業に取り組んでいます。